

開講年度	毎年度	開講学期	夏学期	プログラム区分	マネジメント能力開発プログラム		
時間割番号	M101	必修・選択	必修	推奨受講年度	1～3年目	時間数	4
担当講師	吉田一恵 (Yoshida Kazue) / 倉田千春 (Chiharu Kurata) / 清水 栄子 (Shimizu Eiko) / 坪井 敬文 (Takafumi Tsuboi) (協力)						
研修題目 大学の危機管理 (University Risk Management) - 研究室マネジメントとハラスメント対応							
研修のキーワード 研究室教育 (laboratory teaching)、徒弟制 (apprenticeship)、正統的周辺参加 (legitimate peripheral participation)、研究室ルール (laboratory rules)、ハラスメント (harassment)、セクシャルハラスメント (sexual harassment)、パワーハラスメント (power harassment)、アカデミックハラスメント (academic harassment)、モラルハラスメント (moral harassment)、危機管理 (risk management)							
研修の目的 研究室における教育を効果的にマネジメントする上で必要な知識を獲得する。大学で起こっている具体的な事例をつうじ、ハラスメントに関する正しい知識とハラスメントの無い環境(大学、研究室)づくりに必要な事柄を学ぶ。							
研修の到達目標							
(1) 研究室教育をとりまく状況を説明できる				(4) ハラスメントについて、説明することができる。			
(2) 自身の研究室教育の特徴を説明できる				(5) ハラスメントの事実認定ができる。			
(3) 研究室教育を機能させるルールを作ることができる				(6) ハラスメントに対処できる。			
				(7) ハラスメントの予防対策を構築することができる。			
研修の概要							
<p>大学での教育は、講義や実験・実習といったフォーマルなカリキュラムだけではなく、研究室で過ごす様々な時間(教員や先輩との会話、各種イベント、論文執筆、実験・実習の準備や後片付け等)に行われるインフォーマルで隠れたカリキュラムにおいても存在しています。本研修では、研究室教育の重要性を認識すると同時に、どのようにすれば少ない教員数で、研究室を効果的に運営できるかについて、理系研究室での事例報告などの具体例を通じて、学習します。</p> <p>また大学等において、今、身近ある危機管理とは何かについて説明すると共に、事件・事故が起こった時の初期対応、未然に防ぐための気づきについても考えます。特に、複雑かつ多様化する人権侵害(ハラスメント)について、具体的事例を挙げながら、①ハラスメントの認定ポイント ②ハラスメントが起きた場合の対処方法 ③ハラスメント「施策」、を導き出していきます。</p>							
学習項目							
1. 研究室教育をとりまく状況				6. ハラスメントの定義			
2. 研究室は必要ないのか				7. ハラスメントの分類			
3. ケーススタディ				8. ハラスメントの実態			
4. 事例報告 (理系研究室)				9. 講じるべき措置・ガイドライン			
5. 研究室マネジメントのコツ				10. ケースメソッド			
研修時間外に求められる課題に関する情報							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
愛媛大学研究室マネジメントプロジェクトチーム(2009)「研究室マネジメントに関するインタビュー調査報告書」							
濱中淳子(2006)「研究室教育の効用はどこにあるのか」カレッジマネジメント、139、Pp.56-60.							
日本化学会(2009)「研究室マネジメント入門」丸善							
連絡先							
吉田一恵 (yoshida.kazue.my@ehime-u.ac.jp) / 清水栄子 (shimizu.eiko.ra@ehime-u.ac.jp)							
参照ホームページ							
教育企画室ホームページ http://web.opar.ehime-u.ac.jp/							
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)ホームページ http://www.spod.ehime-u.ac.jp/							
その他							

開講年度	毎年度	開講学期	夏学期	プログラム区分	マネジメント能力開発プログラム		
時間割番号	M102	必修・選択	必修	推奨受講年度	1～3年目	時間数	2
担当講師	丸山智子 (Tomoko Maruyama)						
研修題目 プロジェクト・マネジメント (Project Management)							
研修のキーワード プロジェクト・マネジメント (Project Management), プロジェクトライフサイクル (Project Life Cycle), プロジェクトチーム (Project Team)							
研修の目的 プロジェクト(目標達成型・課題解決型プログラムや共同研究など)を成功に導くために必要な知識の習得、及び目標達成のための方法論を理解する。							
研修の到達目標							
1. プロジェクトマネジメントとは何かを説明できる。 2. プロジェクトマネジメントの考え方やプロセスを説明できる。。							
研修の概要 プロジェクト・マネジメントとは、期限が決められている取組みを完了させることを目指して行われる活動のことである。そのためには、各活動の計画立案、日程表の作成、および進捗管理が含まれる。本研修では、グループワークなどを通じて、プロジェクト運営に必要な知識や技法等について学習する。							
学習項目							
1. プロジェクトを知る 2. プロジェクトマネジメントとは何か 3. プロジェクトの成功とは 4. プロジェクトのライフサイクル 5. プロジェクトの目的の共有 6. 9つの知識エリアとプロセス - プロジェクト憲章 - プロジェクトに必要な作業を明確にするツール (WBS)				- スコープ定義 - リスクマネジメント - ステークホルダーマネジメント 7. プロジェクトマネジャーに求められる条件 8. チームの育成 9. プロジェクトの終結			
研修時間外に求められる課題に関する情報							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書) 成功するプロジェクトマネジメント (伊藤, 2001) プロジェクトマネジメント知識体系 (PMBOK) (PMI)							
連絡先	丸山智子 maruyama.tomoko.xl@ehime-u.ac.jp						
参照ホームページ	教育企画室ホームページ http://web.opar.ehime-u.ac.jp/						
その他							

開講年度	毎年度	開講学期	春学期	プログラム区分	マネジメント能力開発プログラム		
時間割番号	M103	必修・選択	必修	推奨受講年度	1～3年目	時間数	2
担当講師	丸山智子 (Maruyama Tomoko)						
研修題目 会議マネジメント(Meeting Management)							
研修のキーワード 会議マネジメント(meeting management)、ファシリテーション(facilitation)、合意形成(consensus building)							
研修の目的 大学教員は、研究室、各学部学科での会議、また各種委員会、教授会等、さらには地域連携等で地域住民や民間企業を相手にした会議と、会議を実施したり参加したりする機会が頻繁にあります。会議は「意見の異なるもの同士が、議論の末に高次の合意点をみつけるもの」であることが望まれます。本セミナーでは、そのような会議を実現するために、効率的・効果的な運営・進行方法や、主体的に会議に参加するために必要な知識とスキルの習得を目的とします。							
研修の到達目標 (1) 会議を進める上で準備すべきことを理解する。 (2) 会議を上手く運営するために必要なことを理解する。				(3) 会議で決めたことを実行してもらうために、会議後にすべきことを理解する			
研修の概要 日々、職場において会議が開かれています。終了後、「今日は何のための会議だったのか」「疲労感だけが残った」「時間が無駄だった」、そんな気持ちになるような会議が多いのではないのでしょうか。会議に費やした膨大な時間と、その成果について振り返る時間もなく、次の会議が始まっている現状があります。本研修では、「マネジメントする」という視点から会議のあり方を考えていきます。会議とは何か、といった本質的な問いから始まり、マネジメントのプロセスやファシリテータの役割などについて学びます。基本的な会議マネジメント手法を知っておくことは、様々な種類の会議に応用することが可能です。また、会議中よくある「論点のずれ」はなぜ起こるのか、など参加者同士での議論を取り入れた研修となっています。							
学習項目 1. 会議とは何か 2. 良い会議とは何か — ファシリテータに求められる役割				3. 会議マネジメントのプロセス — 事前準備 — 会議の運営 — フォローアップ			
研修時間外に求められる課題に関する情報 とくになし							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書) 青木将幸(2012)『ミーティング・ファシリテーション入門』(ハンズオン! 埼玉出版部)							
連絡先							
参照ホームページ		教育企画室ホームページ http://web.opar.ehime-u.ac.jp/					
その他							

開講年度	毎年・隔年	開講学期	夏学期	プログラム区分	マネジメント能力開発プログラム		
時間割番号	M104	必修・選択	必修	推奨受講年度	2～3年目	時間数	4
担当講師	山本 眞一 (YAMAMOTO Shiniti)、阿部 光伸 (ABE Mitsunobu)						
研修題目 高等教育政策論(Higher Education Policy)							
研修のキーワード 大学設置基準、大綱化、認証評価、国立大学法人化、大学の使命 (Mission of University)、多様化・個性化 (Diversity・Individualization)、大学院教育、教育の質の保証、COE/GP、FDの義務化、情報公開化、大学改革実行プラン							
研修の目的 この研修では、大学を取り巻く様々な政策を理解し、大学改革において必要とされるマネジメント力を発揮できるようになるための基礎を養う。							
研修の到達目標 (1) 1990年代以降の大学改革について説明出来る。 (2) わが国の大学の特質を説明出来る。 (3) 大学を巡る諸環境の変化を説明出来る。							
研修の概要 大学教育改革の潮流により、大学にもマネジメントという概念が普遍化し、それを遂行する能力は、学長等の大学運営に携わる教員だけに求められるものではなく、教育・研究も人を導くと言う観点に立てば全てのポジションの教員に求められる要件となりました。本研修では、わが国の高等教育政策の枠組みを理解し、わが国の大学の特質を知り、大学を巡る諸環境の変化やその対応について学びます。							
学習項目							
1. 大学設置基準の大綱化～教育問題 2. 大学評価～自己点検・評価→認証評価 3. 国立大学の法人化 4. 大学・学部等設置の規制緩和 5. 学校法人改革・私学行政の整備(大臣の権限拡大) 6. 大学の役割の多様化・個性化				7. 大学院教育の発展と実質化 8. 学士課程教育の充実と教育の質保証 9. 競争的資源配分の進行(COE、GP等) 10. FDの義務化(努力義務→実施義務) 11. 大学情報公開義務化など(細目の規制強化) 12. 大学改革実行プラン(機能の再構築等)			
研修時間外に求められる課題に関する情報 事後レポート(A4一枚程度)							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書) 学習項目に挙げられている12の答申等							
連絡先	阿部光伸 abe.mitsunobu.mk@ehime-u.ac.jp						
参照ホームページ	教育企画室ホームページ http://web.opar.ehime-u.ac.jp/						
その他	【形態】eラーニングによる開講とする。						

開講年度	毎年度	開講学期	夏学期	プログラム区分	マネジメント能力開発プログラム		
時間割番号	M107 (必修), M308 (選択)	必修・選択	必修・選択	推奨受講年度	1~3 年目	時間数	2 (必修), 1 (選択)
担当講師	田中寿郎(Toshiro TANAKA) / 伊藤和貴(Kazutaka ITOH) / 浜井盟子 (Meiko HAMAI)						
研修題目							
大学における安全衛生 (Occupational Safety and Health in University)							
研修のキーワード							
労働安全衛生(Occupational Safety and Health)、リスクアセスメント(Risk Assessment)、安全衛生教育(Safety and Health Education)							
研修の目的							
大学教員として、日常の教育研究活動における安全と健康の重要性を十分認識し、そのために課せられている基本的な法律を学ぶ。さらに教職員及び学生に対して、安全で快適な環境で勉学と研究ができるように配慮しなければならないこと、およびその方法を学ぶ。危険予知訓練としてリスクアセスメントの手法を習得し、教職員および学生の双方にとって、安全で快適な研究環境の維持方法を習得する。							
研修の到達目標							
(1) 大学での事故における教員および組織の責任について理解する。 (2) 大学での研究教育活動における安全維持計画を立案できる。				(3) 学生への安全衛生教育を適切に実施できる。 (4) リスクアセスメントの手法を日々の安全衛生維持活動に応用できる。 (5) 安全衛生点検巡視活動に参加し適切な指摘を行える。			
研修の概要							
通常、大学の教員は自らの興味で研究を進めている。従来は、その研究がどのくらい危険性を含んでいるのか？環境への影響はどのようなのか？気に留め事することは少なかった。また、実験室や研究室さらに建物の安全について配慮することも少なかった。しかし、現在ではそのようなことは許されなくなっており、些細なことでも、実験や授業中に事故を起こすと、その影響もとても大きく、実験や授業を担当していた教員ばかりでなく、大学が責任をとることになる。							
事故等を未然に防止するためには、教員が研究室や実験室、授業、さらに学生の安全の維持についての知識と方策を身につけ、教員が自ら実践する必要がある。さらに、全ての研究活動は、環境基準を満たさねばならない。そこで、本研修では、2時間の講義で教員が環境と安全維持に必要な基本的な知識および学生へ安全教育法を習得し、1時間の模擬巡視を行う。							
学修項目							
1. 大学における事故事例およびその損失 2. 大学で順守しなければならない安全衛生上の法令と組織的活動 3. 学生の安全確保とその方策				4. リスクアセスメント演習 5. 安全衛生計画の立案演習			
研修時間外に求められる課題に関する情報							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
中央労働災害防止協会編 労働衛生のしおり							
連絡先							
田中寿郎 tanaka@ehime-u.ac.jp / 伊藤和貴 itoh@agr.ehime-u.ac.jp / 浜井盟子 hamai@m.ehime-u.ac.jp							
参照ホームページ							
その他							
本研修は必修2時間(講義)、選択1時間(実習(模擬巡視))から構成され、講義のみの受講、実習のみの受講も可能とします。ただし、実習(選択)は、事前に2時間の講義(必修)を受講している方のみ、受講できます。また、同じ内容を城北と重信の2か所で開講しますので、都合の良い方で受講ください。							

開講年度	毎年度	開講学期	夏学期	プログラム区分	マネジメント能力開発プログラム		
時間割番号	M309	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	4
担当講師	田中寿郎(Toshiro TANAKA) / 伊藤和貴(Kazutaka ITOH) / 浜井盟子 (Meiko Hamai)						
研修題目 巡視の実際 (Safety patrol)							
研修のキーワード 労働安全衛生(Occupational Safety and Health)、OJT (On the Job Training)、危険予知(Risk Assessment)、							
研修の目的 安全衛生管理者を中心として毎年学内で行われている交互巡視に参加し、巡視の実際を体験し安全管理者が危険と判断する基準や内容を学ぶことにより、自らの安全衛生管理のスキルを向上させる。							
研修の到達目標							
(1) 実際の教育研究現場における安全衛生管理手法を習得できる。				(3) 適切な解決法を立案できるようになる。			
(2) 危険個所の発見体験を通して、現場のさまざまな危険を知ることができる				(4) リスクアセスメントができるようになる。			
研修の概要 愛媛大学では年一回全部局の安全衛生管理者、安全衛生管理委任者等が集まり、巡視を行う交互巡視を行っている。これは、他学部の委員により新鮮な視点で半日かけて再度巡視をすることにより、普段の巡視では見逃しがちな危険個所を見出し、安全の保全策を議論する場となっている。この巡視では、危険個所の発見指摘からその対策まで、大学内の現場を対象に現実の問題の解決を行っており、この巡視に参加することにより、大学教員として習得しておく必要のある教育・研究現場の安全衛生管理の手法を習得することができる。いわゆるOJT研修である。							
学習項目							
1. 巡視の視点				4. 法令との整合性			
2. 危険個所の発見				5. リスクアセスメント			
3. 危険個所の改善法				6. 安全衛生管理の実際			
研修時間外に求められる課題に関する情報 研修後レポート提出をお願いいたします。							
参考書（購入する必要はないが、推奨する図書） 特になし。							
連絡先 田中寿郎 tanaka@ehime-u.ac.jp / 浜井盟子 hamai@m.ehime-u.ac.jp							
参照ホームページ							
その他 交互巡視を受講するためには、事前に「大学における安全衛生」の講義(必修2時間)を受講している必要があります。							

開講年度	毎年度	開講学期	冬学期	プログラム区分	マネジメント能力開発プログラム		
時間割番号	M301	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	2
担当講師	寿 卓三 (KOTOBUKI TAKUZO)						
研修題目 大学におけるダイバーシティ (Diversity in University)							
研修のキーワード 多様性(diversity)、潜在能力(capability)、男女共同参画(Gender equality)、ケアと正義(care and justice)、仕事と生活の両立(work life balance)							
研修の目的 ワークライフ・バランスや男女共同参画社会の推進が正義という観点からも時代・社会の要請となっていることを自覚することが大学教員に求められる基本資質になっていることを学びます。							
研修の到達目標 (1) 大学においてワークライフ・バランスを推進するの必要性を説明できる。 (2) 大学において男女共同参画を推進するの必要性を説明できる。 (3) 大学において正義をケアの問題と関連づけて考える必要性を説明できる。							
研修の概要 グローバル化と国際分業が深化するなか、人材育成はグローバルスタンダードでの競争を視野に入れることを求められています。このような時代的要請を視野に入れながら、リベラルアーツの府としての大学は、知識基盤社会・多文化共生社会・格差社会そしてリスク社会などと呼ばれる現代社会に通用するシテイズンシップを学生との創造的対話を通してダイバーシティという視点からどう構想し具現化していくかについて学習します。							
学習項目 1. ワークライフバランスと新たな公共 2. 男女共同参画と生産性の向上 3. 多様性と潜在能力							
研修時間外に求められる課題に関する情報 担当予定授業においてダイバーシティの視点をどう取り入れるかに関するレポート							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書) 経済産業省委託事業平成23年度 企業におけるダイバーシティ心の経営効果等に関する調査研究 『ダイバーシティと女性活躍の推進～グローバル化時代の人材戦略』～報告書(pdf版をネットで取得可能)							
連絡先 寿 卓三 (kotobuki.takuzo.mk@ehime-u.ac.jp)							
参照ホームページ 教育企画室ホームページ http://web.opar.ehime-u.ac.jp/							
その他							

開講年度	毎年度	開講学期	冬学期	プログラム区分	マネジメント能力開発プログラム		
時間割番号	M302	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	2
担当講師	ルース バージン (Ruth Vergin) 高橋 志野 (Takahashi Shino)、村上 和弘 (Murakami Kazuhiro)						
研修題目 留学生とのコミュニケーション(How to communicate with international students)							
研修のキーワード 留学生(international students)、異文化コミュニケーション(intercultural communication)、多様性(diversity)							
研修の目的 多様性の観点から、大学教員として学生に接する適切な態度を、留学生を例として考える。							
研修の到達目標							
(1) 留学生の現状を理解できる。				(3) 留学生にとって理解が難しい日本語の具体的な用例を3つ以上列挙できる。			
(2) 異文化コミュニケーションの基本が理解できる。							
研修の概要 大学に存在する多様な背景を持つ学生への接し方を、留学生を例として考える。まず、愛媛大学の留学生の現状及び支援の現状とあり方について紹介する。次に、自分と異なる文化背景を持つ他者とのコミュニケーション方法について話す。最後に「日本語学習者にとって難しい日本語」の事例紹介を行い、コミュニケーションの実践的スキルとして「外国人にとって「やさしい」日本語」について学ぶ。							
学習項目							
1. 愛媛大学に在学している留学生の現状				3. 外国人にとって「やさしい」日本語			
2. 異文化交流の基本							
研修時間外に求められる課題に関する情報 自分の周囲の留学生や外国人とのコミュニケーションで困難を感じた経験を記録しておき、講習の際に参加者と共有してください。							
参考書（購入する必要はないが、推奨する図書） 無し							
連絡先		Ruth Vergin: vergin@ehime-u.ac.jp					
参照ホームページ							
その他							

開講年度	毎年度	開講学期	冬学期	プログラム区分	マネジメント能力開発プログラム		
時間割番号	M303	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	2
担当講師	野本ひさ (Nomoto Hisa)						
研修題目 現代学生の理解と関わり方 (Understanding Students)							
研修のキーワード 学生(student)、多様化(Diversity)、学生支援(Student Support)、メンタルヘルス(Mental Health)、人権意識(sense of human rights)							
研修の目的 多様化する現代学生の特徴を理解し、学生に応じた関わり方を身につける。							
研修の到達目標 (1) 多様化する大学生像について理解できる。 (2) 学生との人間関係の築き方について理解できる。				(3) 多様な学生に応じた教育活動ができる。 (4) 学生のメンタルヘルスに配慮した学生支援ができる。			
研修の概要 多様化する大学生像を概観した上で、自分がこれまでに経験してきた大学生の姿と現代学生の姿の違いを理解する。事例を通して学生との関わりを検討し、教員として学生に関わる際の注意点やコツを身につける。また若者のメンタルヘルスに関する現代的トピックを取り上げ、学生理解の一助とする。							
学習項目 1. 大学のユニバーサル化と多様な大学生 2. 現代学生の特徴 3. 多様化に伴う問題				4. 現代学生のメンタルヘルス 5. 学生支援体制の理解			
研修時間外に求められる課題に関する情報 これまで関わった(観察した)学生の中で、“とても理解に苦しむ”あるいは“関わり方が難しい”と感じた場面を思い出し、講師のメールアドレス nomoto.hisa.mb@ehime-u.ac.jp 宛に事前課題として提出して下さい。課題はメール本文に直接書いていただいたのでかまいません。字数制限などは特に設けません。現代学生に対する感想のようなもので結構です。							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書) 『社会力を育てる-新しい学びの構造-』門脇厚司、岩波新書(2010) 『教育力』斉藤 孝、岩波新書(2007)							
連絡先	野本ひさ nomoto.hisa.mb@ehime-u.ac.jp						
参照ホームページ							
その他							

開講年度	隔年度	開講学期	夏学期	プログラム区分	マネジメント能力開発プログラム		
時間割番号	M304	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	3
担当講師	村田晋也 (Shinya Murata)						
研修題目							
チームビルディング (Team Building) ～チームの構築・継続・向上に向けて～							
研修のキーワード							
理念 (Mission)・目的 (Vision)、目標 (Goal)、計画 (Planning)、評価 (Evaluation)							
研修の目的							
研究やプロジェクト等のチームや組織を構築し、メンバーの強みを活かしながらベクトルを合わせ、目標や目的を達成するためのプロセスを修得する。							
研修の到達目標							
1. チームや組織にとってミッション、ビジョン、ゴールを設定することの重要性を述べることができる				3. ビジョンや目的達成のためにメンバーがベクトルを合わせ、強みを活かすことの有効性について述べるができる			
2. チームや組織にとって、計画を設定し、結果を評価することの重要性を述べるができる。				4. 自らの興味関心分野においてチームビルディングの計画案を構築することができる			
研修の概要							
チームビルディングに関する理論やコーチングの理論等を用いて、チームや組織とそれを構成するメンバーとのベクトルを一致させる具体的な方法に関して学んだ上で、自らが係る分野でのチームビルディング計画案を検討する。							
学習項目							
1. ミッション、ビジョン、ゴール設定の重要性				4. メンバーの強みを効果的に活かす			
2. 計画と評価の重要性				5. チームビルディング計画案の作成			
3. チーム・組織とメンバーとの間の win-win 関係							
研修時間外に求められる課題に関する情報							
参考文献の購読をすることが望ましい							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
『入門 チームビルディング』インタービジョンコンソーシアム (PHP ビジネス新書)、『プロフェッショナルの条件』P・Fドラッカー (ダイヤモンド社)、『選択理論』ウィリアム・グラッサー (アチーブメント出版)							
連絡先	教育企画室 opar@stu.ehime-u.ac.jp						
参照ホームページ	教育企画室ホームページ http://web.opar.ehime-u.ac.jp/						
その他							

開講年度	毎年・隔年	開講学期	夏学期	プログラム区分	マネジメント能力開発プログラム		
時間割番号	M305	必修・選択	選択	推奨受講年度	1~3年目	時間数	4
担当講師	池田 輝政 (Ikeda Terumasa)、阿部 光伸 (ABE Mitsunobu)						
研修題目 高等教育戦略論(Strategic Management of Academic Organizations)							
研修のキーワード 高等教育 (Higher education)、高等教育政策 (Higher Education Policy)、大学マネジメント (University management)、大学改革 (University reform)、戦略マネジメント (Strategy management)、戦略アーキテクチャ (Strategy architecture)、プロジェクト・マネジメント (Project management)							
研修の目的 この研修では、学部・研究科集合体を前提とした大学経営の現状において、社会に求められる「戦略マネジメント」の体制構築の方法について学ぶ。							
研修の到達目標 (1) 戦略プランの必要性を述べることができる。 (2) 戦略マップの有効性を説明することができる。				(3) 戦略アーキテクチャーを作成することができる。 (4) 戦略を管理することができる。 (5) 大学経営の中・長期計画に参画することができる。			
研修の概要 戦略マネジメントの要諦は、“顧客が心から求めているものは何か？”この単純な質問を繰り返すことであると云われている。思いつきや、安易な解決策に走らず、問題の本質に立ち返ることが重要となる。本研修では、大学を巡る諸環境の変化に対応する最善の改革案を策定する方法を学びます。							
学習項目 1. なぜ戦略プランが求められるのか 2. 成果体系図を利用した戦略プランについて 3. 戦略プランの全学版と部署版との比較				4. 戦略プランの浸透について 5. 戦略プランのプロジェクト・マネジメントについて 6. 戦略プランの有効性について			
研修時間外に求められる課題に関する情報 事後レポート(A4一枚程度)							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書) MS-15 推進室(2010)『学校法人名城大学 MS-15 ガイドブック』(名城大学)							
連絡先	阿部光伸 abe.mitsunobu.mk@ehime-u.ac.jp						
参照ホームページ	教育企画室ホームページ http://web.opar.ehime-u.ac.jp/						
その他	【形態】eラーニングによる開講とする。						

開講年度	毎年度	開講学期	夏学期	プログラム区分	総合プログラム		
時間割番号	S301	必修・選択	選択	推奨受講年度	2～3年目	時間数	10
担当講師	小林直人 (Naoto Kobayashi) / 清水栄子 (Eiko Shimizu) 他						
研修題目							
アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ (Academic Portfolio Workshop)							
研修のキーワード							
アカデミック・ポートフォリオ(Academic Portfolio)、教育理念(Teaching Philosophy)、教育目的・方法(Teaching Objectives、Methodologies)、研究の特徴(Characteristics of Research)、社会貢献・管理運営の特徴(管理運営、社会貢献) Service (Characteristics of Services, Management)、業績改善 (Professional Accomplishment)、統合 (Integration)、目標 (Goals)、エビデンス(Evidences)、メンタリング (Mentoring)、メンター (Mentor)、メンティー(Mentee)							
研修の目的							
<p>アカデミック・ポートフォリオとは、教育、研究、社会貢献・管理運営活動の業績についての自己省察による記述部分およびその記述を裏づける根拠資料の集合体であり、一人の大学教員の最も重要な専門的成果に関する情報をまとめたものである(ピーター・セルデン/著『アカデミック・ポートフォリオ』より)。</p> <p>一般的に、アカデミック・ポートフォリオは、合理的で公正な人事決定と教員一人ひとりの専門能力の開発のために、自らの業績を証し、業績を改善することを目的としている。また、ティーチング・ポートフォリオとの大きな違いは、教育に加え、研究、社会貢献・管理運営活動の省察、整理を行ったあと、それぞれの領域が自分の専門分野および能力開発にどのように貢献しているかを説明することで3つの領域の統合を図ることにある。</p> <p>本ワークショップは、メンターによるメンタリングや参加者との交流を通して、教育の質向上及び問題解決や日常的な教育・研究・社会貢献・管理運営活動の改善のためにアカデミック・ポートフォリオを作成する。</p>							
研修の到達目標							
(1) 個人の教育活動を振り返り、教育理念、目的、方法を整理し再考することができる。				(5) 個人の教育・研究・社会貢献・管理運営活動を振り返り、教育の短期・長期目標を設定することができる。			
(2) 個人の教育・研究・社会貢献・管理運営活動を振り返り、その成果・業績を整理することができる。				(6) 自身の教育・研究・社会貢献・管理運営活動の業績を根拠付ける有効なエビデンスを付すことができる。			
(3) 個人の教育・研究・社会貢献・管理運営活動を振り返り、改善の努力を整理することができる。				(7) 自身の教育・研究・社会貢献・管理運営活動を自身の専門分野および能力開発にどう貢献しているか説明することができる。			
(4) 個人の教育・研究・社会貢献・管理運営活動を振り返り、具体的な課題を明確にすることができる。				(8) メンターとの協力体制のもと、アカデミック・ポートフォリオを作成することができる。			
				(9) 参加者との交流を深め、意見交換をすることができる			
研修の概要							
本ワークショップでは、メンターのサポートのもと、個人の教育・研究・社会貢献・管理運営活動を振り返り、自身の教育理念・目的・方法、教育・研究・社会貢献・管理運営活動における成果、課題、エビデンスなどを中心に整理していきます。メンターが寄り添い、話し合いを重ねながら自身のアカデミック・ポートフォリオを作成していきます。また参加者同士の交流を行いながら、自身の教育・研究・社会貢献・管理運営活動を振り返る作業を行います。							
学習項目							
1. アカデミック・ポートフォリオの意義、活用方法 2. メンタリング(約30分を3回程度実施) 3. アカデミック・ポートフォリオ作成作業 4. ワークショップ参加者との意見交換 5. アカデミック・ポートフォリオ披露				<アカデミック・ポートフォリオの目次例> 1. 序 2. 教育:教育理念・目的・方法、教育の成果、教育改善の努力等 3. 研究:研究の特徴、学会発表・論文・書籍等のパフォーマンス、大学院生への監督指導等 4. 社会貢献・管理運営活動:学内外の委員とその役割と貢献、学生への助言等 5. 専門的活動および目標の統合 6. エビデンス等の添付資料			
研修時間外に求められる課題に関する情報							
・ 事前課題として、スタートアップシート、APチャートの提出を課している。							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
ピーター・セルデン、J. エリザベス・ミラー 著 大学評価・学位授与機構監訳、栗田佳代子訳(2009)『アカデミック・ポートフォリオ』玉川大学出版部							
連絡先							
小林直人 naoto@m.ehime-u.ac.jp 清水栄子 shimizu.eiko.ra@ehime-u.ac.jp							
参照ホームページ							
教育企画室ホームページ http://web.opar.ehime-u.ac.jp/							
その他							

開講年度	毎年度	開講学期	前学期	プログラム区分	研究能力開発プログラム		
時間割番号	R310	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	4
担当講師	太田佳光 (Ohta Yoshimitsu)、鴛原進 (Oshihara Susumu)						
研修題目							
教育学部附属校園の保育・授業と学校経営 (education for young children, teaching in schools and school management on the faculty's school)							
研修のキーワード							
附属校園 (faculty's school)、授業 (teaching in schools)、学校経営 (school management)							
研修の目的							
教育学部の教員として、教育学部附属校園における保育・授業の様態を理解し、かつ今後の附属校園の学校園経営・経営方針を学ぶ。							
研修の到達目標							
(1) 附属校園における保育・授業の様態を説明することができる。				(3) 附属校園における保育・授業や学校経営・経営方針から自らの研究シーズを見つけることができる。			
(2) 附属校園の学校経営・経営方針を説明できる。							
研修の概要							
教育学部附属校園における保育・授業を観察し、教育実践成果について学習する。							
また、附属校園が独自に立案し、実施している校園における研究テーマと、実際に行われている授業実践とを対比し、今後の附属校園における研究の方向性を知り、学部教員が参画できる内容について考える。							
さらに、参観後に附属校園長の代表との協議を行い、附属校園における課題を共有し、研究シーズに気付くことができる。							
なお、附属校園は、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校とする。							
学習項目							
1. 教育学部附属校園長による講話				4. 共同研究参画にあたっての留意点と研究テーマなどに関する協議			
2. 附属校園における保育・授業の観察				5. 附属校園のいずれか1校を選び、その他の校園と比較しつつ、レポートの形でまとめる			
3. 附属校園が自ら設定した研究の紹介							
研修時間外に求められる課題に関する情報							
附属校園のいずれか1校を選び、その他の校園と比較しつつ、レポートの形でまとめる。							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
なし							
連絡先		附属校園表代表、鴛原進 oshihara@ed.ehime-u.ac.jp					
参照ホームページ							
その他		毎年、内容は同じであるため、複数回の受講を認めない。また、初任1年目の受講を推奨する。 担当講師は、合同研修会副会長 (附属校園長) と合同研修会運営委員とする。					

開講年度	毎年度	開講学期	前学期	プログラム区分	研究能力開発プログラム		
時間割番号	R311	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	2
担当講師	統括研究コーディネーター						
研修題目							
教育学部附属校園による共同研究の手法と内容 (Joint research with faculty' s school)							
研修のキーワード							
附属校園(faculty' s school)、研究手法(research techniques)							
研修の目的							
教育学部の教員として、教育学部附属校園における共同研究の成果を理解し、かつ今後の共同研究の推進に必要な事柄を学ぶ。							
研修の到達目標							
(1) 附属校園における研究の目的を説明することができる。				(3) 各研究部における研究の推進方法を説明できる。			
(2) 学部附属であることの価値を活かせる研究の方法論を説明できる。				(4) 附属校園における研究を開始するための手法・手順を説明できる。			
研修の概要							
教育学部の教員と附属校園の教員による共同研究の成果発表を視聴し、その成果について学習する。							
また、附属校園が独自に立案し、実施している校園における研究テーマと、それらの研究の進捗状況を知り、学部教員が参画できる内容について理解する。							
さらに、各部会ごとに附属校園における課題を共有し、研究シーズに気付き、研究の開始にあたり、その手法について学習する。							
なお、部会として、教育経営、国語、社会、数学、理科、生活科・総合的学習、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、幼児教育、特別支援教育、英語、養護を設けているので、受講者はこれらの部会のいずれかに所属することが求められる。所属する部会は受講者が所属する課程・コースと関係が深い部会とすることとし、内容を深めるため、継続して同じ部会に所属することが望まれる。							
学習項目							
1. 教育学部長講話				4. 各部会における共同研究の紹介 (各部会ごとに開催)			
2. 学部と附属校園による共同研究による成果発表 (おおむね2件)				5. 共同研究参画にあたっての留意点と研究テーマなどに関して、統括研究コーディネーターと協議する			
3. 附属校園が自ら設定した研究の紹介							
研修時間外に求められる課題に関する情報							
なし							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
なし							
連絡先		統括研究コーディネーター					
参照ホームページ							
その他		毎年、成果発表の内容は異なるため、複数回の受講を認めることとし、そのたびに受講時間数を積み上げることができる。 教育学部に所属する者は、この RD プログラムの参加を必須とする。					

開講年度	毎年度	開講学期	後学期	プログラム区分	研究能力開発プログラム		
時間割番号	R316	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	4
担当講師	統括研究コーディネーター						
研修題目							
愛媛教育研究大会での研修 (Observation of Seminars are held on the faculty's school)							
研修のキーワード							
附属校園(faculty's school)、保育(education for young children)、授業(teaching in schools)、学校経営(school management)							
研修の目的							
教育学部附属校園における研究会に参加し、保育・授業や保育研究・授業研究の様態を理解し、今後の附属校園における研究と自身の研究との関連を学ぶ。							
研修の到達目標							
(1) 附属校園における保育・授業の様態を説明することができる。				(3) 附属校園における保育・授業や学校経営・経営方針の実現を自らの研究を通して図れるよう方策を見つけることができる。			
(2) 附属校園の学校経営・経営方針を説明できる。							
研修の概要							
教育学部附属校園における研究会における保育・授業を観察し、その後の保育研究・授業研究の方法について学習する。							
また、附属校園が独自に立案し、実施している校園における研究テーマと、実際に行われている保育実践・授業実践とを対比し、今後の附属校園における研究の方向性に自らの研究が活かせるよう方策を考える。							
研究会に併せて行われる講演会に参加し、次の教育課題を理解し、新たな研究シーズに気付くことができる。							
なお、附属校園は、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校とする。							
学習項目							
1. 附属校園における保育・授業の観察				4. 共同研究に向けた具体的な方策を見つける			
2. 附属校園における保育・授業に関する保育研究・授業研究会の観察				5. 保育研究会・授業研究会または講演会の内容と自らの研究の関連についてレポートの形でまとめる			
3. 附属校園が自ら設定した研究の報告を知る							
研修時間外に求められる課題に関する情報							
附属校園のいずれか1校を選び、その他の校園と比較しつつ、レポートの形でまとめる。							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
なし							
連絡先		統括研究コーディネーター					
参照ホームページ							
その他		附属校園により内容が異なるため、1年間に複数の研究会への参加を認める。 毎年、内容が異なるため、複数回の受講を認める。また、初任1年目は、受講を強く推奨する。					

開講年度	毎年度	開講学期	夏学期	プログラム区分	教育能力開発プログラム		
時間割番号	E315	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	2
担当講師	小林 直人 (Naoto KOBAYASHI)						
研修題目 アンサーパッド(クlickカー)を用いたアクティブ・ラーニング入門 (an introduction to Active Learning)							
研修のキーワード アクティブ・ラーニング(active learning)、ピア・インストラクション(Peer Instruction)、大人数講義(large scale lectures)							
研修の目的 大人数の講義でも学生の授業への参加を促し能動的に学ぶことを促すことができる授業方法として、アンサーパッド(クlickカー)を用いたピア・インストラクションの事例を紹介する。また、アクティブ・ラーニングの考え方全般についても学ぶ。							
研修の到達目標							
(1)大人数講義の長所と短所を挙げるができる。 (2)ピア・インストラクションを用いた授業の流れを説明できる。				(3)ピア・インストラクションで用いられる ConcepTest を作成できる。 (4)アクティブ・ラーニングの手法を用いた学生参加型の授業を実践できる。			
研修の概要 医学教育のグローバル・スタンダードでは、一方的に講義を聴くタイプの授業ではなく、アクティブ・ラーニングの手法を用いた学生参加型の授業を実践していることが求められる。愛媛大学医学部でもそのためのアンサーパッド(クlickカー)を購入し、これまでになかった授業を展開することを目指している。本講習では、アンサーパッド(クlickカー)を用いたピア・インストラクションを実際に体験し、医学教育においてどのような内容に適した授業スタイルなのかを考え、さらに自らの授業で実践できるようになることを目指す。							
学習項目							
1. 大人数講義の長所と短所 2. 大人数講義におけるアクティブ・ラーニングの実例				3. ピア・インストラクションを用いた授業の流れ 4. ピア・インストラクションのための小テスト(ConcepTest) 5. ピア・インストラクションを用いた授業の長所と短所			
研修時間外に求められる課題に関する情報 予め「アクティブ・ラーニング」や「ピア・インストラクション」をキーワードとしてネット上で検索するか、または下記の文献によって、基礎的な情報を得ておくことが望ましい。							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書) 高田和生『アクティブラーニング:主体的で効果的な学習を可能にする授業とは』、日本内科学会雑誌、104(12):2498-2507, 2015 蔣妃『大人数講義で行うアクティブラーニング ピアインストラクション』、看護教育、55(5):398-404, 2014							
連絡先		小林直人 naoto@m.ehime-u.ac.jp					
参照ホームページ		http://www.kals.c.u-tokyo.ac.jp/dalt/15-minutes/					
その他		9月に重信キャンパスにおいて開講する。日程は後日、メール・掲示等で周知する。					

開講年度	毎年度	開講学期	夏学期	プログラム区分	教育能力開発プログラム		
時間割番号	E316	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	2
担当講師	小林 直人 (Naoto KOBAYASHI)						
研修題目 医科共用試験CBTのための多肢選択型試験問題の作成入門 (an introduction to multiple-choice exams)							
研修のキーワード CBT (computer-based test)、EMI問題(exams with expanded multiple items)、医科共用試験 (common achievement test for medical students)							
研修の目的 医学科4回生が受験する医科共用試験CBTのための作問を通して、良質な多肢選択型試験問題を作成するための基本的な技法を学ぶ。また、国家試験も含めて、最近の多肢選択型試験問題(extended matching items [EMI]、など)の傾向について理解する。							
研修の到達目標							
(1) 客観的試験問題の種類を列挙できる。 (2) 多肢選択型試験問題の長所と短所を指摘できる。				(3) 多肢選択型試験問題、特にEMI形式の問題を作成できる。 (4) 医科共用試験(CBT+OSCE)の意義を説明できる。			
研修の概要 医学科4回生が受験する医科共用試験では、技能と態度を測定する臨床実技試験(OSCE)とならんで、知識や理解力を測定ためにコンピューターを用いて解答するCBTが行われている。共用試験に合格することは、医学生が臨床実習を行う上での医師法上の違法性を阻却する事由の一つと考えられている。 共用試験CBTは出題数が320問、解答時間が6時間にわたる試験であるため、出題形式に制約が多い。本講習では、医科共用試験の意義やその中におけるCBTの特徴、さらに実際に良問を作成する上での注意事項を学び、学んだ知識を共用試験の作問だけでなく各講座が作成する定期試験の問題作成にも活かすことを目指している。							
学習項目							
1. 医科共用試験の意義 2. 医科共用試験のCBT 3. CBTの問題形式				4. EMI問題(exams with expanded multiple items)の形式 5. より良い問題にするためのブラッシュ・アップ 6. 客観的試験問題の長所と限界			
研修時間外に求められる課題に関する情報 医学科教員であれば、共用試験の基礎知識を得ておくことが望ましい(医療系共用試験実施評価機構のウェブサイト参照のこと： http://www.cato.umin.jp/)。							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
連絡先		小林直人 naoto@m.ehime-u.ac.jp					
参照ホームページ		http://www.cato.umin.jp/					
その他		重信キャンパスにおいて開講する。医科CBTの問題作成依頼の説明会を兼ねるが、看護学科や他学部の教員も歓迎します。					